

## 目的・手段・評価の考え方と 4 場面別にみた連携の目的について

### 【内容】

1. 目的・手段・評価の考え方
2. 4 場面別にみた連携の目的について

令和4年12月14日  
埼玉県立大学大学院／研究開発センター  
川越雅弘

# 1. 目的・手段・評価の考え方

# マネジメントでは、常に「目的」を意識しながら「手段」を考える

## ポイント

- 目的とは成し遂げようと目指す事柄のこと、目標とは目的を達成するための目印のことです。目的では、「何のために・なぜ(Why)行うのか」に、目標では「何(What)を目指すのか」にポイントが置かれます。
- 他方、手段とは目的や目標を達成するための方法のことで、「どのように(How)行うのか」にポイントが置かれます。介護サービス、多職種連携、アセスメント、情報収集などは、この手段に位置づけられます。当然、目的や目標によって、何の情報を収集するか、何をアセスメントするかは変わることになります。
- マネジメントでは、通常、目的⇒目標⇒手段の順に思考を展開します。他方、手段によって目的や目標が達成できたかどうかを評価する場合は、手段⇒目標⇒目的の順に確認していきます。

図1. 目的・目標・手段の  
関係

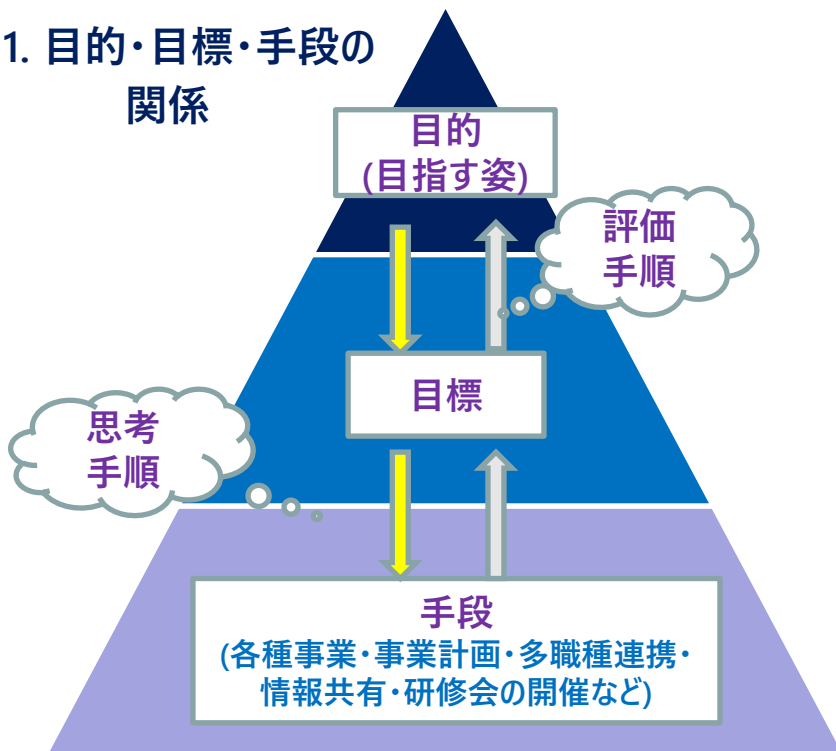
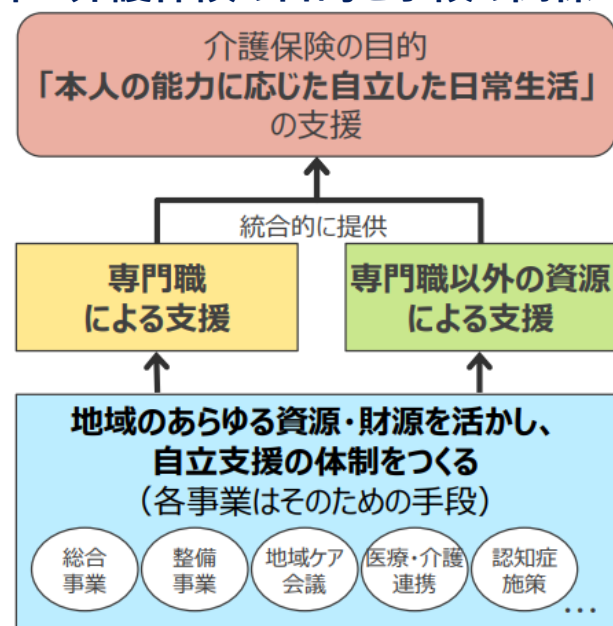


図2. 介護保険の目的と手段の関係



出所) 株式会社NTTデータ経営研究所: 介護予防・日常生活支援総合事業/生活支援体制整備事業 これからの推進に向けて～伴走型支援から見えてきた事業推進の方策～、平成30年度老人保健健康増進等事業補助金老人保健健康増進等事業「介護予防・日常生活支援総合事業及び生活支援体制整備事業の効果的な推進方法に関する研究事業」報告書(2019年3月)を一部改変

# 目的と手段の考え方の例（複数の手段が階層になっている場合の例）

図3. 手段から目的を考える思考の展開例

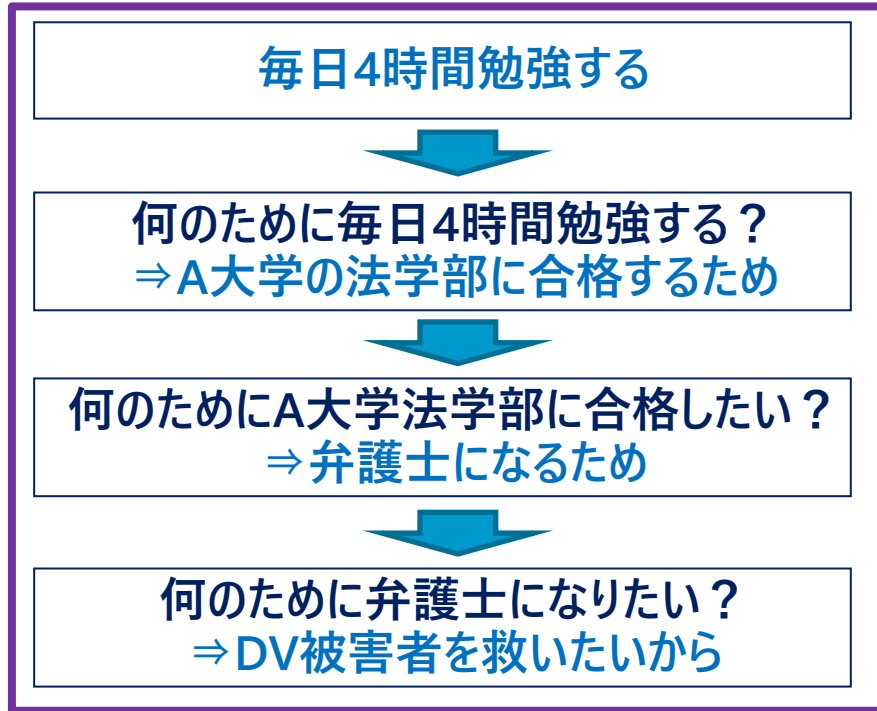
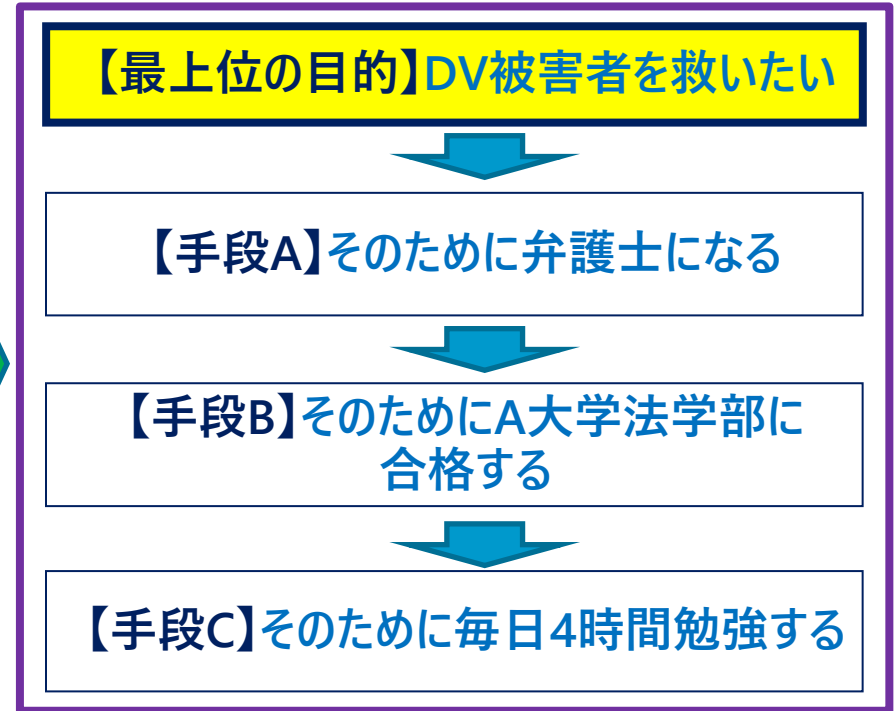


図4. 目的⇒手段の順に整理し直した例



## 【手段の目的化とは】

- 図4の手段Cのところをみると、「A大学法学部に合格するために毎日4時間勉強する」という表現も成り立つ。すなわち、「A大学法学部に合格すること」は、「毎日4時間勉強すること」の目的にもなる。そのため、目的は何かと問われた場合に、「A大学の法学部に合格するため」と回答してしまう。本来手段である「A大学法学部に合格すること」自体が目的となってしまう。これを「手段の目的化」という。
- 大事なことは、「何のため？」「何を実現するため？」を自問しながら、「上位の目的はないか？」を意識すること。

# 目的・手段の進捗管理の考え方の例

図5. 目的⇒手段の順に整理し直した例

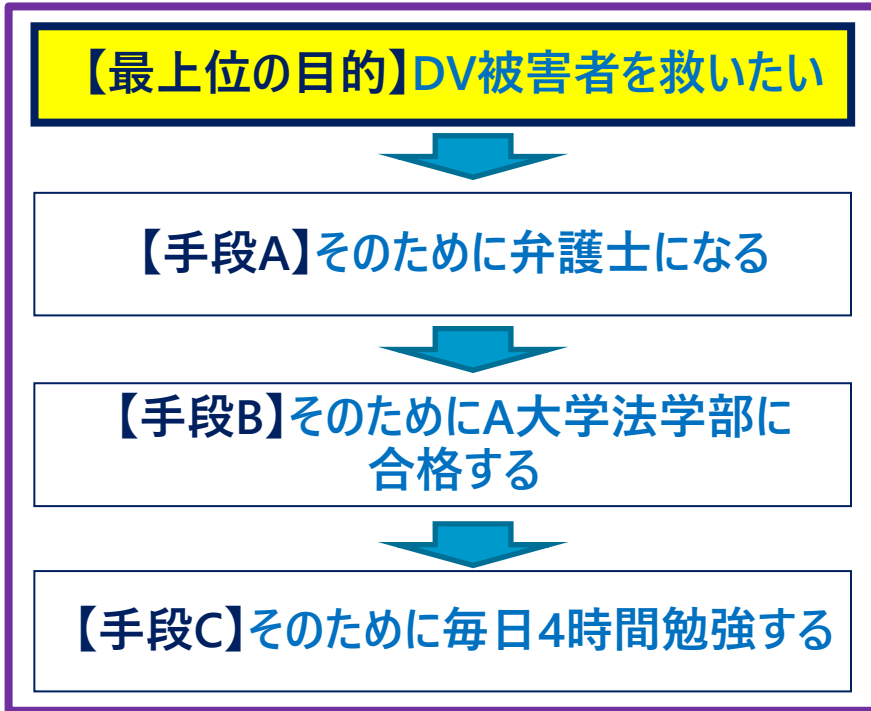
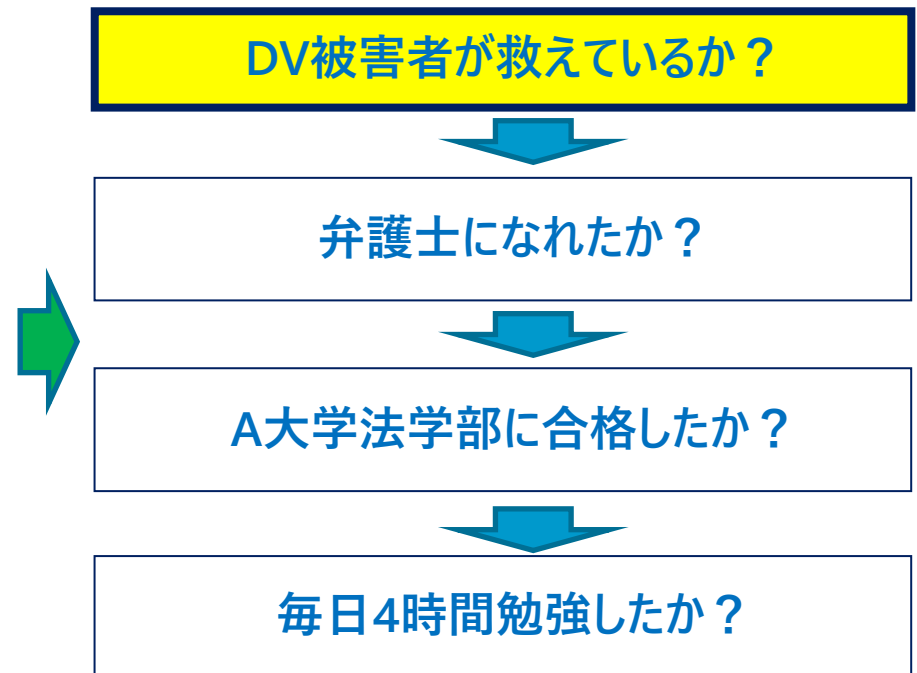


図6. 進捗管理(評価)の視点



## 【進捗管理の視点】

- 進捗管理には、「**①目的の達成状況に関する進捗管理**」と、「**②手段の実施状況に関する進捗管理**」がある。進捗管理で最も重要なことは「目的に近づいているかどうか」である。本例であれば、「DV被害者が救えているか」となる。あとは、何の指標で具体的な進捗を把握するかである（例：相談を受けた人のうち、自立した生活が現在送れている人数など）。
- ただし、目的の達成は様々な取組みの「結果」でもある。従って、結果に繋がっていない場合はそこに至るプロセスや体制などの状況を確認し、達成できていない場合はその理由を考察し、対策を再検討することになる。

手段から、目的・期待したこと・評価指標を考える  
—施策「認知症サロンの整備」を例に—

# 手段から目的を考えると、施策に期待したことや評価指標が整理しやすい

図7. 施策(手段)から目的を考える思考の展開例

目的は「施策に期待したこと(評価の視点)」でもある

認知症サロンを整備する (手段)

何のために整備する？

【対本人】

- ① 外出機会を増やす
- ② 楽しい時間を過ごす
- ③ 生活リズムを作る など

何のために整備する？

【対家族】

- ① 負担軽減(身体・精神)
- ② 自由時間の確保
- ③ 仲間作り など

何のために整備する？

【対専門職・行政】

- ① 家族へのヒアリングを通じた本人の意向の把握
- ② 本人及び家族の支援ニーズの把握 など

何のために外出機会を増やす？

- ・活動量を増やすため
- ・認知機能の進行を遅らせるため

何のために仲間作りをする？

- ・悩みを共有するため
- ・対応のコツを共有するため
- ・相談相手を見つけるため

何のために支援ニーズを把握する？

- ・本人／家族の意向やニーズに沿った支援策を検討するため

何のために、①支援ニーズの把握、②外出機会の確保、③家族同士の交流促進を図るのか？

⇒在宅生活の継続性を確保するため(これが上位の目的)

## 2.4 場面別にみた「連携の目的」について



## ① 日常の療養支援

# 「日常療養」における連携の目的に関する意見

- 在宅療養中でも、ステークホルダー全員で本人の身体的精神的健康を保つため
- 在宅療養中でも、急変時でもすぐに入院できる病院を確保するため
- 自分らしい在宅生活を送るため
- 必要な支援を活用して、その方が希望した場所で在宅療養が続けられるため
- 在宅療養者が在宅生活を続けるため
- 在宅で安心、安全、快適に暮らすため
- 患者の疾病コントロールに必要なケアや支援を、医療・ケアチーム内で適切に役割分担して連携できるようにするため
- 病状の把握、必要なケアの内容の共有、どのような計画で支援するのか。在宅療養者にとって、過ごしやすい生活がおくれることを実現するため
- 再入院をしないように、再発防止や重度化予防をするため
- 在宅療養者の再発や重度化を予防し、状態が安定して療養生活が送れるようにするため
- 在宅での療養を安心して継続できるようにするため
- 本人が安心して在宅生活を続けていけるようにするため（手段：関係者が日頃から情報共有を行い、必要な療養支援の調整ができる）
- 在宅療養者が、入浴できない・適切な食事ができないなどの生活課題を改善し自分らしい暮らしを続けられるため
- 医療職とケア職の助言を在宅療養者に分かりやすく伝え、不安なく安心した在宅生活を送っていたため
- 利用者の望む暮らしの実現
- その人が希望する在宅での生活を叶えるため
- 病気の再発や重症化を防ぐため
- 本人の病状が悪化することなく在宅生活を送れるため
- 退院後の本人の生活支援及び再入院時の病院との連携の備えをするため

# 「日常療養」における連携の目的と目的達成のために必要なこと

## 【上位目的】

- 在宅生活を続けることができる

## 【そのために必要なこと】

- 身体的精神的健康が保たれていること
- 疾病コントロールができていていること（再発防止）
- 重度化予防対策がとられていること
- 必要なケアや支援（家族を含む）が受けられていること
- 関係者で情報共有が行われていること
- 専門職の指導が本人・家族に伝えられていて、かつ、実践できていること

## ②入退院支援

# 「入退院時」における連携の目的に関する意見①

- 正しい治療が自宅でも継続されるため
- 再発して再入院しないような在宅療養生活を送るため
- 必要かつ実現可能な介護・医療サービスが提供される新しい生活を作るため
- 退院後の生活を想像し、療養のために必要なことは何かを考えるため
- **再入院を避けるため**に、少しでも在宅生活を続けるために生活の体制を整える
- 退院後の在宅生活をスムーズにするため
- 院内から自宅になるので、自分らしい在宅生活を送れる
- 入院期間の短縮により、在宅での医療的要素も含めた包括的なケアマネジメントが必要になる。入院時の状態などの情報をケアマネジャーが中心となりケアマネジメントすることで、より質の高いサービスを実施するため
- 今後自宅でどんな治療・ケア・サービスが必要かを共有し、もらった情報を元に、対象が地域で問題なく暮らせるようケアマネがサービスを調整するため
- 患者の在宅生活移行がスムーズにできる
- 患者が在宅生活するため（再発防止）
- 自宅に戻ってからの患者さんが、入院前の生活に近づけるように・戻れるようにするため**自宅での生活が継続できる**ようにするため
- 病気の知識がある病院スタッフと在宅の様子を把握しているケアマネの連携により、在宅で必要なサービス調整がスムーズになり、本人が困らず生活するため
- 在宅に戻った時に入院前の生活に近づけるため
- 入院前後の状態を把握し、適切なサービスに繋げるため
- **方向性を統一**するため
- 利用者やその家族が、安心して地域で在宅での生活が送れるように、入院中の情報を共有する
- **円滑な入院を実現**するため、利用者に対して速やかな支援を行うため
- 患者が安心して自宅での療養を実現できるように入院時、退院時に連携を図る

## 「入退院時」における連携の目的に関する意見②（続き）

- 共有、サービスに結び付くことがゴール
- 自宅生活で困りそうなことを共有して、必要な/使える資源を把握するため
- 在宅での医療ニーズの把握／薬や通院方法の把握／日常生活での注意点／利用者（患者）のスムーズな退院調整のため／必要なサービス調整のため／再発防止のため
- 療養者が望む場所で生活を送れるようにするために病院スタッフとケアマネが退院に向けて連携する
- 高齢者（患者・利用者）が入院生活から在宅生活への移行をスムーズにできるようにするため
- 在宅での療養が続けられて、疾患のコントロールが行なえるようにするため
- 本人等が在宅生活をイメージでき、在宅生活に必要な生活上の支援等について準備できるようにするため
- 退院後の受療のタイミングや方法を予め確認しておき、医療と介護の両方の支援が途切れないようにするため
- 必要な医療や介護サービスを自宅で受けられ、療養が順調に継続できるようにすることで、療養の質を低下させないため
- 利用者と家族が安心して住み慣れた家（希望する療養場所）に戻るため
- 再発防止のため、治療が継続される必要があるため
- 在宅療養者が必要なサービスを受けながら再入院せず在宅生活を継続できる
- スムーズな在宅生活への移行ができるようにするため
- 退院直後から、本人が困らずに本人の望む生活を送れるようにするため
- 重症化・再発などのリスク対応が適切に行われることで、再入院を防ぐため
- 同じ病気で再入院しないため、どのように在宅生活を送るのか話し合う
- 必要な介護サービスや福祉用具を退院日に準備し、患者、利用者様、ご家族様の退院後の生活に不便やニーズの不一致さなくすため

## 「入退院時」における連携の目的に関する意見③（続き）

- 切れ目なくサービスを継続するため、住環境等を整えるため
- 病院と地域が切れ目なく、患者（利用者）の望む在宅生活を実現するため
- 退院後も、高齢者本人の望む場所で安心して暮らすことができるように、高齢者本人及びその家族が望む必要なサービスが切れ目なく提供できる連携体制を構築する
- 本人の意向に沿った必要な在宅医療・介護サービスを利用できるようにするため
- 退院後も、各専門職の適切なケアの下、できる限り再発を防止し、安心して在宅療養を継続することができるようにする
- 本人（患者さん）が安心して在宅生活に移行できるため
- 本人が在宅でも健やかに（再発なく）過ごすため

### ③急変時



# 「急変時」における連携の目的に関する意見

- 在宅療養中でも、急変時でもすぐに入院できる病院を確保するため
- 必要な情報が確実に救急隊に伝わるために
- 急変時にスムーズに医療に繋げるため
- 急変時、救急隊が人命救助のための処置を行う際、本人の普段の情報があることで、人命救助をより効果的に行うこと、また緊急連絡先やその方のACPを実現すること
- 本人の疾患や服薬、認知症の有無など、これからの治療と入院生活を送る上での必要な情報を共有し、スムーズな治療・入院に繋げるため
- 急変時に適切な医療を受けられるようにするため
- 持病や薬や家族への連絡など、在宅関係者が持つ情報を救急関係者に伝えることで、緊急時の対応をスムーズに行うため
- 本人の普段の在宅生活について医療関係者に情報提供し受療できるようにするため
- 医療側の見立て等の情報を在宅側が得て、今後の生活調整に活かすため
- 在宅療養者の情報共有が円滑に共有され、搬送先医療機関で適切で迅速な医療が提供できる
- 医療介護連携が不十分であることが原因で、高齢者が自分の望むくらしを続けられることが阻害されることがないようにするため
- 本人のご意向の確認が難しい場合を考えた時に、本人は何をしてほしいか・それを誰に確認すればよいかを、救急隊や関わった方が理解できるシステムをつくることで、対象者が望む、治療やACPについて選択することが出来る
- ACPに関連する情報を共有し、利用者や家族が納得できる救急搬送とするため
- 本人の生命の維持、搬送後の救命措置を確実に実施するため

## ④看取り

# 「看取り」における連携の目的に関する意見①

- 本人の意思に沿った最期を迎えるために
- 本人や家族が後悔しないよう看取るために、看取りに向けて起こるだろうプロセスをできる限り予想し、限られた時間を有意義に過ごしていただくため
- 本人・ご家族が後悔しないような看取りを行えるよう、専門職で共通理解が得られるようにしするため
- その方が望んだ場所、望んだ形で、看取ることが出来る
- 本人の希望・意思に沿った最期を迎えるために
- 本人の望む人生の最終段階を過ごせるように
- 本人が希望する看取りをするため
- 患者さん・ご家族の望む暮らしを実現するため
- 本人が望む最期を叶えるため
- 患者の疾病特性による人生の最終段階の経過や状態イメージを共有し、医療・ケアチームで（慌てず怖がらず）適切な支援にあたるようにするため
- 最終的に本人の希望と家族の覚悟に沿った看取りと決断ができる
- 患者家族が最期の時を大切にできる。残された時間を有効に過ごせる。本人苦痛なく過ごせる。家族の予定や予測の範囲で受け入れられる
- 本人が希望する生活に近づけるため
- 何度も話し合う機会を持ち、記録に残し、共有するため
- 見通しをもって対応に当たるようにするため
- 本人の望みに合わせ、苦痛なくおだやかな最後を迎えられるため
- 看取られる患者さんが、最後まで自分らしく過ごせるための最後の時間を実現するため
- 残された時間の過ごし方のすり合わせのため／家族・本人の想いの共有／望む暮らしを送ることができる／必要な医療・介護サービスのすり合わせのため／急変時に普段関わるケア職と連携することでACPについて救急対応したことを迅速に伝えられる

## 「看取り」における連携の目的に関する意見②

- 利用者が希望する看取りを実現するため
- 遺族にとっても納得のいく看取りを実現するため
- 人生の最終段階において、本人家族が望む生活を安心して送ることができるため
- 本人が望む生活を維持する、そのためのサービスを提供するため
- 本人の望む最期を迎えられるよう、それぞれの得意分野を活かし支援できるよう話し合う
- 全身状態の急激な変化に合わせた対応を素早く行うため
- 利用者様やご家族様の気持ちの揺らぎを共有することで、思いを尊重し穏やかな看取りへむかうため
- 人生の最終段階にご本人の望む医療・ケアが受けられる生活を実現するため
- 本人の意向の共有により、対象者が希望している場所や状況で、最期を迎えることができる
- 本人が人生の最終段階における望む場所での看取りを行えるようにするために、医療・介護関係者が、高齢者本人の人生の最終段階における意思を共有する
- 人生の最期までその人らしく生きるため
- 状況に合わせた支援をしながら最期まで過ごすため
- ケアチームで、本人の意向に沿った看取りができるようにするため
- 希望者に対して在宅の看取りを円滑に行うことができる
- 本人の日常生活や体調の急変時に医療と介護両方に対応するため